

菅寺尾台廃寺跡 (すげでらおだいはいじあと) (川崎市)

菅寺尾台廃寺跡はこの高台の団地の中にあるという



団地はこんなに高いところにある



団地内のここが菅寺尾台廃寺跡



正面に復元された八角形の基壇が見える/右手に説明板がある





ここには平安時代初期に八角円堂が建っていたという





基壇上に登ってみる



寺尾台廃堂跡

寺尾台廃堂跡は、
昭和二十六年・二十
七・四十二年の三
十年にわたって地
盤調査されました。
その結果、
堂宇の存在が推測
されました。



その存在が推測
されました。基礎の平面形がほぼ約九メートルの
八角形であることから、建築物も小形の八角四柱で、
平安時代初期(九世紀前後)と推定されます。
この八角堂は、社殿の構造がわからないこと
なり、寺院といふよりは、山林中にひっそりと置
かれた供養塔のふじなを伴ったものであつたか
、奥園における数少ない遺跡として貴重です。
この八角堂遺跡は、跡地調査の結果を中心と
して、復元されました。

昭和六十年 十月
川崎市教育委員会

寺尾台廃堂跡

寺尾台廃堂跡は、

昭和二十六・二十

七・四十三年の三

カ年にわたつて発

掘調査されました。

その結果、基壇

の上に建てられた

堂宇の存在が推測

されました。基壇の平面形が直径約九メートルの

八角形であることから、建物も小型の八角円堂で、

その建立の時期は、屋根を葺いた瓦の年代から、

平安時代初期(九世紀前後)と推定されます。

この八角堂は、付属の建造物が伴わないところ

から、寺院というよりは、山林中にひっそりと祀

られた供養堂のような性格であつたと考えられ、

東国における数少ない遺跡として貴重です。

この八角堂基壇は、発掘調査の成果をもとにし

て、復元されました。

昭和六十年 十月

川崎市教育委員会



発掘された古瓦

「寺尾台八角堂跡」と記された記念碑



